

## 議員定数に関する市民説明会会議録

会議年月日	平成25年2月3日（日）		
開 会	午後1時30分	閉 会	午後2時55分
場 所	さざんか会館		
出席委員 (9名)	委員長 上杉 栄一 副委員長 上紙 光春 委 員 砂田 典男 下村 佳弘 児島 良 角谷 敏男 有松 数紀 谷口 秀夫 両川 洋々		
傍 聴 者	191名		
本日の会議に 付した事件	(1) 議員定数改正に向けた取り組みの経過 (2) 市民アンケート調査結果 (3) 質疑応答・意見要望		

◆**角谷議員** それでは、これから質疑応答の時間をとりたいと思います。

進め方について御協力とお願いをさせていただきたいと思います。

発言については、こちらから指名をさせていただきますので、発言を希望される方は挙手をお願いしたいと思います。担当の議員がマイクを持ってまいりますので、マイクで発言をしていただきたいと思います。

2つ目は、たくさんの方々に御発言をいただきたいと思いますので、発言は1人1回2項目程度にさせていただきまして、簡潔明瞭に、おおよそ3分程度でまとめていただけたらと思います。

3番目は、この説明会については記録を残したいと考えております。専門的な質問など、この場でお答えできないものにつきましては、後日、市議会のホームページなどでお答えするようにしたいと考えております。そのためにも、発言の際には氏名を必ずお名乗りいただいて御発言をしていただきたいと思います。この点、御協力と御理解をお願いをいたします。

それでは、質疑応答と行いたいと思います。発言を希望される方、挙手をお願いいたします。

それでは、じゃあ一番近いところから。

○**質問者A** Aと申します。先方の報告の最後にございます厳しい意見が議会に対して出てるわけですけど、特に「議員からの意見や要望を聞かれたことがありますか」に、ないが89%、そのほかありますけど、時間が限られていますので、こういう点について、実は私は参加しておりませんが、鳥取市革新懇が、これだからこそ議席を減らすということは、ますますひどいことになるんでないか、ますます議会が市民と乖離してしまうんでないかということで、市議会にも意見を出してると思いますね。さっき自治連でもありましたけれど、こういう見解を発表しておりますけれど、旧市町村の合併前は議員数が140人だったと。それが現在36人になってるわけ

ですね。それをもっと減らせば、より市民の意見が反映されないことになる。こういう点について革新懇は、議会が地方自治の立場から自己分析を行った上、委員会活動の改善策は明らかにされるべきではないか、住民の意思を尊重し、多様な要求実現を可能とする議員定数にすべきだという見解を發表しておられます。この点について、議会はどのように考えられるんか。先方、河原でもちょっと言ったんですけど、どうも数のことばかりが論議されて、少なくすれば、より市民の意見が反映されなくなるんですけど、その点の見解をぜひ伺いたいと思っております。

◆**角谷議員** 上杉委員長。

◆**上杉議員** 座ったままで失礼いたします。革新懇の方からの要望書は、まだ具体的には受け取っておりません。先ほどのAさんのお話の中で、議員定数が少なければ市民の声が吸い上げられない、確かにそのこともあると思います。議会の中での議論では、じゃあ何人だったら吸い上げられるかという話でありまして、100人要るのか、50人でいいのか、20人でいいのかと。これも市民の先ほどのアンケートの中で何人がベターだというのが非常にばらつきがあるというのは、そのことだというふうに思っております。

午前中の湖山の説明会でも私も申し上げましたけれども、市民の総体的な考え方としては、やはり今の状況からすれば、議員の数は減らした方がいいのではないかという、そういった意見。それから、それぞれの団体から、先ほど10名減らせというような話もありましたけど、そういった意見もありましたけれども、きょう午前中に私がお話をさせていただいたのは、何人であったらいいというよりも、まずもってきょう、アンケートの中で、いろんな厳しい意見が出ました。

議員の資質を上げていかなければならない、それが一番ではないかというふうに思っております。ですから、議会改革の検討会、議会改革を進めていくという形の中で、例えば今後、議会報告会であったり市民説明会であったり、そういった場をどんどんつくっていく。ですから、個々のそれぞれ議員さんと個々の市民の皆さんとというつながりが、それはそれでいいと思いますけれども、議会全体として市民とどういうふうに向き合うかということの方が大事ではないかなというふうに思っております。

ですから、市民の意見からすれば、今、議員の数が多過ぎる、減らせという意見が先ほどのお話の中でも60%ということでありましたので、きょう、いろんな意見を聞かせていただきまして、現状でいいという意見も午前中、きのうもいっぱい出ております。そういうことも踏まえて、この説明会が終わりましてから委員会を開催いたしますので、しっかりそのあたりは議論してみたいと思います。以上です。

◆**角谷議員** よろしいでしょうか。

じゃあ、どうぞ。

○**質問者B** Bと申します。2点お尋ねいたします。

1点は、福島県の会津若松あるいは上越、こういった3都市に研修にといいますか、見学に行っているらしいんですが、私、こういった類似都市に行く場合は、単に人口規模であるとか面積規模が類似した都市でなくて、市民生活のレベルが同じような都市に行くべきだと思うんですね。例えば県民所得、それから税金の収納率であるとか、そういった生活度合いがわかる、あるいは財政状況、そういった都市に行って、そこがどういうふうな取り組みをしているか、こういう点

を聞いてきてほしいと、参考にしてほしいと思うんです。それが1点目。

それから2点目は、今の類似都市に行かれたときに、漏れてる、あるいはアンケートにも聞かれてないこと、それは報酬の問題なんです。議員報酬について全然アンケートにも問いかけてないし、この3都市に行っても聞いてない。今、全国的に地方議会の議員の報酬は下げる結構にありますよね。名古屋市でも何か去年ですか、下げましたし、それから国会議員も下げようという今動きがあるでしょう、歳費を。中には、日当制でやってる都市もあるじゃないですか。私は、やっぱりそういう点にも視点を当てて考えるべきだと思うんです。

先ほど議員の数が減れば市民の声が届きにくいという意見がありました。確かにそうです。ですけれども、一方、議員の数をふやせば経費がかかるわけですね。これはすなわちもろ刃の剣なんですよ。ですから、やり方としては、報酬をうんと下げて、そして議員の数を少しふやすと、そういう方法もあるわけですね。だから、こういう点を含めた今後、市議会の検討をお願いしたいと思います。以上です。

**◆角谷議員** それでは、2点についてお答えをさせていただきます。

**◆上杉議員** ありがとうございます。会津若松市等々につきましては、議会の委員会の目的は、市民説明会であったり、あるいは市民のアンケート等について実際にこれを実施をされて移されたということでありましたから、鳥取市議会も、これをやりたいということでありましたので、そういうことが一番の主の目的として行かせていただいたところであります。

それから、議員報酬についてですけれども、本特別委員会については、議員定数に関するということで調査項目がある程度決まっておりました。今後、先ほど申し上げましたように、この議員報酬の問題につきましては、今後の議会改革の検討の会を立ち上げていただくように議長にはお願いするようしております、委員会としましては。その中で、将来的に鳥取市の市議会議員の報酬はどうあるべきか、日当制の話も出ましたけれども、あるいは議員活動が年間にどれぐらい、それこそ議員の活動をされて、その中で、要するに議員報酬がどれぐらいが適当なのかということについては今後の検討課題でありますし、今後これは検討されるべきもんだというふうに思っております。

**○質問者B** じゃあ、なぜアンケートで聞かなかったのか。

**◆角谷議員** Bさん、立って、もう一遍立って発言してください。

**○質問者B** じゃあ、アンケートでなぜ市民に聞かなかったんですか、報酬のことを。

**◆角谷議員** どうぞ。

**◆上杉議員** 先ほど申し上げましたように、議員定数を決めるということが大前提でありましたから、議員報酬については検討の中には入ってなかったということでもあります。

(発言する者あり)

**◆角谷議員** ちょっと不規則に発言でなく、御意見があれば挙手でということをお願いしておりますので、お願いをしたいと思います。

ほかに御発言、どうぞ、後ろの方。

**○質問者C** Cです。2つ質問いたします。

1つは、現場改革というのは非常に大事なんですがね、この報告の中に、鳥取市自治会連合会

から10人減ということが出てますね。自治会連合会から、自治体ですね、これは現場の感覚なんですよ。言うならば民主主義の意見そのものなんです。それがどうして32名になるんですか。これが第1点。

それから第2点、上杉さんが真摯に受けとめると言われました。真摯という以上、具体的でないといけません。あらゆる物事に具体的、現実的な感覚がないと、口だけではだめなんです。どういうことですか、真摯な感覚でって具体的に教えてください。以上。

◆**角谷議員** じゃあ、委員長。

◆**上杉議員** 自治会連合会から10人減という要望が出てまいりました。いわゆる人口7,700人に当たり1人でということになれば、鳥取市は26人でいいんじゃないかという議論でありました。これは議会の中での議論については、ただ単に人口比で割るべきものではないんじゃないかと。合併をして鳥取市は3倍になった市域の中で10人減ということについては、これは異論があるということでありましたし、それから議論の過程の中では、例えば今回4人減らして、次に4人減らすという手もあるんじゃないかというような議会での意見もありました。ただ、次の次の選挙につきましては、我々現議員がここで確定する話ではありません。方向としては、そういう考え方もあるということで、これは次の検討委員会にゆだねたいというふうに思っております。

それから、具体的に真摯に対応するというのは、先ほど申し上げましたように、今後……

(発言する者あり)

◆**角谷議員** ちょっと待ってください。先ほど発言された方の意図に沿わない答弁だということですか。

○**質問者C** 発言者の意見を求めました。司会者の意見じゃなくて、発言者の意見を聞きました。

◆**角谷議員** 発言者と言われましても、一応委員会で共通認識した点について我々はきょう報告しようということですので、それを代表して委員長が今説明してるということで、そういう流れで来ておる。

○**質問者C** 私は、発言者の、発言したんですよ、上杉さんが、真摯に受けとめると。だから、上杉さんの真摯の中身を聞いている。

◆**上杉議員** 私はどう思うということ。

◆**角谷議員** だから、今、上杉委員長が答えてるところです。

(発言する者あり)

◆**角谷議員** ちょっと不規則発言はやめていただきたいんですが。まず、質問した方に答えなきゃいけないですから、委員長が今答えてますので。

◆**上杉議員** 真摯に受けとめるというのは、先ほど申し上げましたように、今後の市議会のあり方については改革検討委員会であったり、あるいは市民説明会であったり議会報告会であったり、そういったことを通じて、しっかりと市民の皆様にお知らせをする、あるいは説明をする、そういったことが真摯に受けとめるということであります。

◆**角谷議員** 委員長が今答えましたが、よろしいでしょうか。

○**質問者C** 納得しませんけど、何しろ時間がないから。

◆角谷議員 じゃあ、御協力ありがとうございます。

じゃあ、そちらの方。

○質問者D Dと申します。今の答弁ですけれども、冗談はほどほどにしてもらいたいです。真摯に受けとめるということは、市民の声をきっちり聞いて、それを実現していくということなんです。自治会連合会が要望を出してるということは、鳥取市の多くの皆さんがそういう思いでいらっしゃる。だから、先ほどの回答の中で出ました。市民の声を聞かなければならない。聞いてないんですよ。聞く気が全くないんですよ。そのことが問題なんです。いいですか。今まで市議会はそうだったんです。

だから、自分たちの懐に手をつけないで、議員定数だけを議題にしてるんですよ。だから、そのことは、ほかの自治体でももう既にやってるじゃないですか。もっと早く皆さんがみずからの身を切っていく。市民生活、どない苦しんでるんですか。そんな中で、しゃあしゃあとして680万、そんな給料をもらってやってるんじゃないですか。そして、次の分が出ますけれども、次の分に絡むけれども、住民投票の思いを一たん否定して、住民投票の結果が出たら、今度はそれを否定する。それが今の市議会なんですよ。それで680万もらってるんですよ。いいかげんにしてほしいですよ。回答があったら、どうぞ。

◆角谷議員 じゃあ、どなた。回答は求めておられますね、Dさん。

○質問者D 御答弁をどうぞ。

◆上杉議員 先ほど申し上げましたように、今後しっかり検討してさせていただくと……。

○質問者D 検討じゃないんだよ。

◆角谷議員 じゃあ、もう一回だけ、Dさん。

○質問者D だから、検討するってだれでも言えるんですよ。市民の側に立って市民の思いを実現するのが市会議員の仕事でしょう。だから、やりますと言えばいいんですよ。ここに議員は何十人もいるわけでしょう。じゃあ、みんなで削減やりましょう。大事なことです。10人削減やりましょう。大事なことです、やりましょう。みんなで手を挙げればいいことじゃないですか。それが政治なんですよ。ちんたらちんたら何もせずにおっとして、「聞きます、聞きます」って言って聞かないのは政治じゃないんです。

(「進行について」と呼ぶ者あり)

◆角谷議員 ちょっと待ってください。Dさん、もう……。

○質問者D いいですよ、もう。御意見があればどうぞ。

◆角谷議員 もう、ない。

(「もう終わり」と呼ぶ者あり)

◆角谷議員 ないということを書いてますけど、よろしいですか。

○質問者D ということは、責任を逃げてるとのことなんですよ。そのことが問題なんです。

◆角谷議員 わかりました、御意見として。

一番奥の方、最初から手を挙げておられますので。

○質問者E Eと言います。きょう、こういう会を持っていただいて、議会に大変ありがたく思っております。ぜひこれからの議会として定例会のできれば前後に報告していただいて、それ

それ会があると思いますので、それぞれの会では、今度の議会ではこういう対応をするというふうなことも含めて、こういう報告会をぜひやっていただきたいということがまず第1です。

それからもう一つは、今先ほど10人減らせということが出ましたけども、特別委員会で一応4人減らそうという案が出てますが、もし、きょうが最後のこういう報告会ですが、その4人の減というのがいけんということがあれば、これは直されるのかどうか。それがもう一つ。

それからあと、このアンケートで2,000人のアンケートをされたと書いてあります。それで、691人の回答があったということで、その議員定数を減というのが60%あって、数字で見ますと、2,000人のうちのたったの400人ほどなんですわ、減を要望しておられる方は。これが市民の意見かどうかということを私は疑問に思うんです。それで、先ほど上杉委員長さんがアンケートの内容を言われましたけども、私ちょっと見て書いておったんで、議員から意見や要望を聞かれたことがありますかということに、ないというのがざっと89%、それから市民の意見が議会に反映されてるかということに、わからないというのが74%、それから議会を評価してますかということで、評価してない、先ほどありましたけども、余り評価してないのが80何%、こういうことを見ますと、議会が市民の要望をちゃんと聞いてないということがこのアンケートのあらわれだと思っんですわ。それで、そのことを、これだけ広大になった合併地域で議会を減らしていいのかどうか、私は改めて考えていただきたいと。それで、先ほど出ましたけども、報酬はもう減らせばいいんです。そして、やっぱり住民の意見や要望が議会に反映され、市当局に反映されるように、議会人としても取り組んでいただきたいということをぜひお願いして、私の意見を終わらせていただきます。

◆**角谷議員** 今の発言の中での質問の部分がありますか。

○**質問者E** 2点。

◆**角谷議員** 2点だけ。きょう聞いた意見をどう反映させるかということが1点でしたね。

○**質問者E** それから、議員定数を減らさんでもいいという意見がきのう、きょうやられた中で多数であれば、その減を取りやめられるのかどうか、これが2つ目と。それから、アンケートを見ると、議員の皆さんはどういうふうに考えておられるか。

◆**角谷議員** わかりました。じゃあ、2点答えていただきます。

◆**上杉議員** 先ほど定例会の前か後に報告会ということですけども、これは議長の方から答えていただきます。それから、現状のままでいいという意見もちろんきのうもありましたし、やはり減らすべきだという意見、きょうも、それぞれ意見があるわけですから、そういったことも踏まえて、しっかりとこの後、委員会の中で協議したいというふうに思っております。

◆**角谷議員** それと、アンケートをどう受けとめてるかというのが出ております。

◆**上杉議員** 先ほど申し上げましたように、アンケートの中で市民と議会の中で乖離があるということでした。最初の設問で、要望といいますが、定期的に議会と市民との意見交換会、そういったものによって、これはある程度クリアできるのかなというふうに思っております。後は議長の方で、そういった会を持つのか、方向としてはどうなのかということについては、議長の方で答えます。

◆**湯口議長** 報告会をというお話だったように思っておりますけれども、いずれにしても、今

回、我々、こういう形で庁舎の問題あるいは定数の問題ということで、皆さんの方に御意見を伺いたい、あるいは現在の我々の考え方はこうですというようなことで、初めての会を持たせていただきました。きのう、きょうと2日間、5会場ということですが、今後については、今回のこういう会をやった後、また委員の皆さんと、あるいは最終的には会派間との調整を図って、前向きな方法で私としては説明できたかなとは思っております。ただ、それが先ほど申されたように、毎定例会ごとにこういうことができるかということは別にしまして、従来とは違った形で市民の皆さんに説明責任を果たすというようなことや開かれた議会をつくっていくという上では、こういった会というのは必要なのかなというふうには、私は現時点ではそういうふう感じております。そのあたりで御理解がいければというふうに思っております。

◆**角谷議員** よろしいですか。

じゃあ、一番奥のその方。

○**質問者 F** Fと申します。今、議員の定数を減らすという、そういう話が出ております。これは一つに、今いろんな意見が出ておりますけれども、なぜ議員の定数を減らすべきだという声がたくさん出ておるのか、あるいは議員の報酬が多過ぎる、減らすべきだという声が出ておるのはなぜかということを皆さんの委員会の中で、どのように検討されたのか。なぜこういう声が出てきておるのか。つまり先ほど前の方からもおっしゃいましたけれども、議会が自分たちの声をきちんと聞いていただけていない、反映されていない、非常に高いパーセンテージで議会そのものがきちんと機能していない、このことが原因で、そんな議会だったら、そんなにたくさん議員は要らんのではないかと。もっと身近に我々の意見をきちんと聞くような機会をもっと持たれておれば、ああ、そのぐらいえらい目をしておるんなら報酬もそのぐらいで当然だとか、そういう議員もこのぐらいおってもいいわということになる。その逆だから、まさしく言われたように、こういう会議を議会が持ったのは初めてだと、えらい自慢げに言われますけども、恥ずかしいことですよ。

それで、今でも例えば佐治、それから福部、ここからは1人も市会議員が出ておられません。いずれひょっとして道州制がしかれたら、我々鳥取からは、わずかの議員しか出ていかないという状況に陥らんと限らん。同じ悲哀を我々が感じざるを得ないというようなことになる。その可能性だってある状況がある中で、そのことを真剣に考えていただかないといけないというふうに思うんです。議会は、その点をどのように議論をされたのか、議員として。このアンケート結果に示された、先ほど上杉さんが言われたように、非常に厳しい意見が出ておるのはなぜだったのかという議論を議員自身の中でどれだけ真摯に受けとめて討論をされたのか、お聞かせ願いたい。

◆**角谷議員** じゃあ、児島議員がお答えします。

◆**児島議員** 今、大変厳しい御意見をいただきました。まことにそのとおりだと思います。議会というものを市民の方が何を期待されているかによるわけですね。議員というのは、皆様方を代表して執行部機関に対峙するという二元代表制の重要な役割を担っておるわけです。その議会の経費を市民の方がただの必要経費と見るのか、あるいは我々の代弁をしてくれる一つの財産として見るのかという見方があるわけです。今、Fさんが言われたのは、何をしとるだいやと、こ

れだったらただの必要経費だがないやと、もっとしっかり働いてもらったら我々の財産になるじゃないかというようなことです。

現状を見ますと、御指摘のとおり、同じ資産でも不良資産と言わざるを得ないということをおっしゃられても、これはいたし方がないとは思いますが。アンケートを委員会で分析しました折に、やはりこれは議会改革が大前提となってやらなきゃいけない、とにかく議会改革は要るということをおっしゃる前提として、先ほど委員長の報告もありましたように、そのように進めると。ただ、この委員会の与えられた任務は、議員定数を幾らにするかということだけでございますので、ほかのことが余りやれないような、権限もありません。そういうような委員会の状況でした。皆様方の厳しい意見が出るだろうと想定してアンケートをした結果、やはりそのとおりであった。それについて真摯に反省をして、議会改革に邁進したいということで委員会は一致しております。

◆**角谷議員** じゃあ、もう一回だけ。

○**質問者 F** 今お答えいただきましたけれども、議会の中で、このアンケートの結果のことについてどのような討論がなされたのか。本当に真剣にみんなの、市民から出ておるいろんな厳しい意見を真摯に受けとめるというようなことでなくて、どういうふうにするべきなのか、なぜこういうふうになってるのかという分析をされたのかどうかということをお聞きしました。

それともう一つは、我々がこうして説明会を受けるのは、例えば鳥取市長さんも同じことですが、全部決めてしまってから皆さんに説明すると。それから、26回も持たれた住民投票の委員会でも、その間に一遍でも途中経過を市民の意見を聞きながらするということがなされてこなかった。これでも一応方向で4名減らして32名にするということが決められてから市民に聞くと。これは逆だと思えます。その辺はどういうふうにお考えでしょうか。そこが大変おかしいところだと私は思っております。お答え願います。

◆**角谷議員** そしたら、やり方が逆じゃないかという意見ですから。

◆**兎島議員** 恐らくそう言われるだろうと思っております。ですから、今回の議員定数を進めるに当たって、市民説明会の後に決定するという前提に始めました。まず最初に、アンケートで市民の皆さんの意向を聞く、議論をする。そして、一定の結論、結論といっても、いわゆる中間報告のあれですよ。そして、きょうのような機会を設け、5カ所で皆さん方の真摯な御意見を承って、それで再度委員会を開いて最初の決定をして、最後、条例案を提出して議会にかけるという流れですので、決定した後、この市民説明会をしたというのはちょっと違うと思えます。まだ決定はしておりません。

◆**角谷議員** そうしましたら、次にじゃあ行かせていただきます。

じゃあ、こちら、その方、眼鏡をかけておられる方。

○**質問者 G** 済みません、Gと言います。今、厳しい御意見がありました。それは全くそのとおりだと思います。それで、一つは質問と、一つは提案をしたいと思えます。

まず、質問なんですけれども、私が実は革新懇のお世話をさせていただいてます。革新懇として議長に、先ほどの方が述べられたことを書類として提出してあります。それが委員長の手元にないとなれば、これは議長の責任。日にちがなかったんですか。書類をいただいたら、所管の委員長に渡すのが当然じゃないかと。なぜそれをまだ受け取っていないとは何事だ。こういうこと

だから、先ほどの質問が出るんですよ。私がちょっと体調が不良ですので、できませんけれども、とにかくアンケートを私は見ました。驚きました。まず、市会議員の皆さんが立候補されたとき、マイクを持って話されたこと、その中で一番多かったのは、「市民の皆さんの手足となって働きます、意見があったら言ってください、行きます、意見を聞きます、皆さんの手足になって働きます」この声が一番多かった。私も議員経験がありますから、なおさらそのことに注目しておりました。

ところが、アンケート、その結果はどうか。議員から意見を求められたことがない、これが圧倒的に多い。しかも議員さんが私たちの前に出たこともない。前に出るということは、その家庭を訪問して、また皆さんが集まるところに出向いて行って、「こんにちは、何かありませんか」と、こう尋ねるのが前へ出ることなんです。それがない。だから、したがって、こんな議員さん要らないじゃないかと出てくるのは当たり前のこと。だから、議員の必要性がどういう形で出てくるか。1つは人口割だ。平均全国の人口割でやっているとところがふえてるから、人口割でいこうじゃないかと、こんな意見が出てくるんです。一番大事なのは、どうして一人一人の意見を吸い上げていくか、ここに全力を挙げることなんです。そうすると、議員は30人あっても50人あっても足りない。だから、議員定数を考えるまでに、このアンケートに出てる議会の、また議員のあり方、これを検討すべきだと、これがないんです。

私の経験から申し上げます。提案だ。私は各集落に出向きました。議会報告会をずっとやってきました。今度、次に議会として出向いていこう。議会を何班かに分けて、各集落に出向くようになる。こういうことを鳥取市議会はやってほしい。

◆**角谷議員** ちょっと発言中ですけど、まとめていただけますか。かなり時間が……。

○**質問者G** これは提案だ。

◆**角谷議員** いや、提案でも、まとめて言っていただく、御協力ください。よろしくお願いします。

○**質問者G** 市議会として、特に議員さんがいない地域には出向いて行って、そして意見を聞くわ、報告するわ、そして議員さんがおられるところは同じこと、地区を細かく分けて、できるだけ市民と接する機会を設けること、こういう形をとれば、私は議会は生きてくる。本来あるべき姿に戻ってくるということが言えます。そのことをお願いしたい。

◆**角谷議員** よろしいですか。

そうしましたら、ちょっと待ってください。一応意見として、それから議長が受け取った文書のことがちょっと出ておりますので、それは答えていただくと。それから、提案について議長もあわせて答えていただくということで、ここはあれしたいと思います。

◆**湯口議長** じゃあ、失礼いたします。確かにせんだって議長室の方に陳情をお持ちいただいたのは私も存じておりますが、内容についてはお話も伺いました。それで、私の方がお願いしたのは、手続上に問題がありますので、きちっとした書類を提出していただけないでしょうかということ事務局の方からも指摘があったりして、お返ししたところでございます。その後、私の方にまたそういったものが出てきておりませんが、いずれにしても、陳情という形でお受けすれば、当然2月定例会ももう少し間近になっておりますので、所管の委員会の方に委託をし

て審議をいただくということになりますので、御理解をいただきたいと思います。

それから、説明会等のお話が随分皆さんの方から出ております。まず1つには、議会としてどういことができるかということを検討せないかんとします。あるいはこれは鳥取市議会の場合は会派というものがござります。同じようなお考えをお持ちの方がグループをつくっておられますので、会派の活動としてやれることはどういうものがあるんだろうかというのは、これはまた各会派の皆さんでお考えいただくといかんことだろうと思います。それともう一つは、個々の議員さん、いろんなお考えをお持ちの議員さんが集まっておられますので、個々の議員さんとして、今言われたようなことについてどういう対応をしていく。そういう中では、個々の議員のいわゆるレベルアップをしていくということも今後考えていくということになるんだろうと思います。

最終的には定数の関係の問題からアンケート等をとるということもあって、その中には、随分先ほどから御意見をいただいているような、議会改革にかかわるような部分が多く指摘をされておりますので、この件については、報酬の問題もそうでしょうし、いろんな議会活動のあり方も含めて、そういった機関をぜひ3月に各会派の代表者の方々と協議をして、どういう形でこの問題について一つずつ取り組んでいくのかというような検討する場合をつくりたいというふうに現時点では私は思っておりますので、今後の取り組みにどうか御理解をいただきたいというふうに思います。

**◆角谷議員** ちょっと御不満な点はあるかもしれませんが、実はこれ2時半ぐらいまでに終わりたい。ただ、先ほども御意見がありますので、市民の意見を聞いてないという御批判がありますので、あと後ろの方と前と、じゃあ3人の方で質疑応答、発言は終わらせていただくということで、じゃあ一番奥の方、以前から手を挙げておられましたので、最初に御発言願います。

**○質問者H** Hです。議員の仕事って何ですか。これはもう一番素朴な質問ではないかと思うんです。仕事されんでしたら、先ほど言っておられましたけど、要りませんね。やるならやってもらわんと困ります。市報に載っておりましたけど、歳費が710万、高いか安いかは、これはいろいろあるところですよ。ですから、710万に政務調査費ですか、これが何百万つくかわからないですけど、まず1人1,000万、35人で3億5,000万、これを35人にされるんか、20人にされるんか、100人にされるんか、そこで議員の仕事というのは出てくるです。もう一番簡単に言いますと、鳥取市を住みやすいまちにさせていただくこと、これが皆さんが思われる、難しい言葉とか、そういうものではありません。「鳥取に住んでみい、鳥取が一番いいで」って言って、これしかないはずなんですよ。意見を聞く聞かんじゃない、聞いてもらわんといけませんで、議員さん。それが仕事ですから。

ですから、もうおかしな話がいっぱいわかる。例えば蔵田にありますバードスタジアム、サッカー場がありますが、ここへオーロラビジョンをつけるんですって。オーロラビジョンをつけて、それから照明が暗いから照明を明るくしたい。これに何と10億使うんですよ。これ議会の承認があったからやりますよって、竹内さんが言いよった、この間、千代水の公民館に来とってね。やるって言って。それで、おまけにまた若葉台にガイナレーのサッカーの練習場を7億5,000万かけてつくるんですって。これは、合併特例債は使えるし、スポーツ債を使うから、何を文句言い

よるかってというような顔をして前教育長が、Nさんが言っておられました。本当に17億5,000万あってみてください。今、市民は反対しております、予算で、20億8,000万で建てようかと言いはる。それと変わらない金額ですよ、サッカー場と。ガイナレがたった年間18試合ですよ、使うのは。あんなところにオーロラビジョンつけて、明かりが足らんからって行って10億使って、ガイナレって鳥取市のチームですか、これ。市民が養っていくチームですか。よう考えてみてください。

◆**角谷議員** Hさん、最後までめてくださいませんか。

○**質問者H** 本当にあほみたいに17億5,000万、もう、そんなだったら給食費をただにするとか、保育料をただにするとか、そういうことに使うのが私は本当だと思います。あれはやっぱり1,000万の値打ちはありませんで、議員さん、本当に。保育をただにするとか、保育所が足らなだったら保育所をつくる。給食費をただにしましょう。鳥取市は日本で初めてかもわからん。そういう鳥取市にしてください。これが議員さんの仕事だと私は思います。よろしくお願いします。

◆**角谷議員** 御意見でよろしいですか。それとも、最初の議員の仕事は何ですかということをお答えということでしょうか。

○**質問者H** 両方教えてください、2つ。

◆**角谷議員** そうしましたら、個々の政策問題はちょっと答えにくいと思うんですけど、というのは、さっき言いましたように、議員定数のことを中心にうちの委員会では議論をして、その議論の到達点、調査の状況を報告しておりますので、一応議員の仕事って何ですかという素朴な疑問、これは投げかけられてますので、これについては、どなたか教えてください。じゃあ、児島委員。

それから、2点目についてどうするか、ちょっと委員長の相談してください。

◆**児島議員** まず、議員の仕事ですが、大きく分けて2つあります。1つは、いわゆる市執行部が暴走しないように監視すること。もう一点は、政策提言をすること。大きい仕事は大体この2つだと思います。その前段で、市民の声を聞く、あるいは政務調査を行って、知識を深める。それをもとに市長の、執行部に対して物申すというような形になると思います。大きく分けて、この2つが仕事だと思います。

それと、政務調査費ですが、鳥取市は1人3万円を12カ月で36万円で、何百万円ももらってありませんし、どこかの県議会議員さんみたいにももらってありませんし、それも、しかも会派に出されますので、それは使途はしっかりと1円まで領収書をつけて出しております。以上の答弁でよろしいでしょうか。

◆**角谷議員** 委員長、どうぞ。

◆**上杉議員** バードスタジアムのオーロラビジョンと若葉台の施設、オーロラビジョンにつきましては、totoの資金、これが5分の4がいわゆるサッカー協会からの補助金だというふうに聞いております。ですから、鳥取市の持ち分というのはその5分の1だというふうに聞いておりますし、それから若葉台のスポーツセンターにつきましては、あそこは開発公社が以前から持っておった土地で、言ってみれば塩漬けになっておりました。大変後の活用についても非常に厳しい、今、若葉台につきましても、1万人都市構想からという状況でありましたけれども、現在、確かに

4,000人ぐらいで将来の開発の見込みがないような状況の中で、以前に鳥取市が開発公社を通じて買ってあった土地が塩漬けになっております。その中で、これにつきましても、施設についてはtotoだというふうに思っております。

それから、ガイナレの問題につきましても、いろんな意見がおありだというふうに思っております。平井知事も、要するに鳥取県のチームとして、あるいは市長も、そういうふうに申し上げておりますけれども、毎回あそこには3,000人、4,000人のそれこそ観客が詰めかけるわけでありまして、一番近い鳥取県からプロのスポーツチーム、プロのチームが出たということで、何とかこれを盛り上げなければいけないという市民の声ももちろんあるわけでありまして、いろんな声がある中で、じゃあどれを優先的にするかということは、言ってみれば行政の責任だというふうに思っておりますし、我々議会も、それを取捨選択をして、それに向かうというのが原点であるというふうに思っております。個々の問題でありますので、これにつきましても、いろんな議員の意見があるわけですので、私の個人の意見は控えさせていただきますけれども、そういう状況で今至っているというところであります。

◆**角谷議員** そしたら、もう一方、真ん中辺に1人、どうぞ。最後に女性の方をお願いしたいと思います。時間が押しておりますので、済みません、簡潔にお願いします。

○**質問者 I** 時間がありませんので、簡単に。Iでございます。さんざんな目に遭っておられます議員の皆さんに、これぐらいはやっていただきたいというお願いです。地区ごとに担当議員さんを決めていただいたらどうでしょうか。その方に夜来ていただいてということもできますし、その地区ごとに歩いていただくこともできます。そういうことを経験していただくことによって、多少は動けるんじゃないかと思っております。お願いします。

◆**角谷議員** 御意見、御提案ですが、答弁の方は要りますか、とりあえずでも。

議長にするか委員長にするか。

◆**有松議員** 失礼をいたします。どの会場でも、そういった御意見をいただいております。ただ、我々は全市域の中で選ばれた議員でございますので、それぞれの地区に張りつけるということのやり方は、いかがなものかなというふうに思っております。そういったことで、皆さんかにこの場をおかりしてお願いをさせていただきたいと思っておりますけれども、非常に皆さん方は政治にも、この市政にも大変関心の高い方々が集まっていらっしゃる。そういった輪の中でお願いするんですけども、できるだけ皆さん方の地域の中に、近くの方でも結構です。なじみの議員でも結構ですので、地域を決めてしまうということではなしに、どの議員でも結構ですので、今の市政はどうなってるのかなというようなことを報告しに来てくれないかということをごんごん議員に投げかけてやっていただきたい。恐らくこのことを問われて断る議員は少ないと私は思っております。

実際に私の立場を、私見ということは今回は抜きという中でこの説明会を進めておりますけれども、私のことを言わせていただければ、お願いをしても、その地域の集会の内容が、総会がかかっておったりというようなことで、なかなか時間をいただけない。そんな状況が多々ございます。ですから、議員の方としても、皆様方にお伝えしたいことがたくさんあるんですけども、その場が与えていただけないということも現実としてあるということをご理解をいただいて、ぜひとも

どんどん各議員に出向いて、今どうなってるのかな、市庁舎問題はどうなってるのかなということをお聞きいただき、そして、ひざを突き合わせながら疑問に答えて、また納得をしていただくという場をぜひつくっていただきたいということをお願いをさせていただきたいと思います。

それともう一点、市民の皆さん方の御意見を我々議会はどう反映してるのか、という御意見がたくさんございました。このことについては、なかなか細かな議論を議事録を通して皆さんかにお伝えするということはできませんけども、決してそういう、例えばですけども、10人減らしたというような話の中で、何もその部分を反映してないじゃないかという極端な話になるかもしれませんが、皆さん方の御意見は御意見として伺いますけども、御意見をすべて我々が聞くことが本当に議員の立場からいいますと、そのことをしんしゃくしながら、議会自身として我々の立場を明らかにしていくということで、今の4人減ということを示しておるということでありますので、この改革というものをこれから先も我々の任期がある以上に、次の議会に対しての中でも議会改革を進めてまいります。その都度その都度に皆さん方の御意見を伺いながら進歩をしていく議会でありたいなという思いでありますので、そういった御理解を賜ればというふうに改めてお願いしておきたいと思います。以上です。

◆**角谷議員** じゃあ、最後に女性の方。

○**質問者 J** Jと申します。この中間報告の中でアンケートのことが書かれておまして、きょうのお話も、ずっとそれに沿ってお話が進んできてるんですけども、鳥取市の人口が切つてますが、約20万ですね。抽出調査ということで、2,000人にアンケートを出しておられるんですけども、回答したのが691人って、34.6%なんですけれども、これは抽出、アンケートというか、そういう統計的な観点から申しまして、この精度についての検証というか、それはなさっているのでしょうか。これは信頼性の高さ何%程度ということを確認されているかどうかをお聞きしたかったんです。

◆**角谷議員** わかりました。

じゃあ、委員長。

◆**上杉議員** これ事務局の方にも確認をいたしました。一般的に言うと、500の単体があれば、具体的にそのあたりの市民の意見については、これは反映できるということでありましたので、それをそのまま採用させていただきました。

○**質問者 J** わかりました。

◆**角谷議員** Kさん、議員の名前がわからないということですか。

○**質問者 K** 議員は、ええことを言われて何っていうのか。

◆**角谷議員** 有松議員です。

それでは、大変ちょっと時間が25分近くオーバーをいたしまして、我々の趣旨からいうと、若干延びても皆さんの意見を聞くべきだという立場で司会進行をさせていただきました。